

令和6年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 第1回学校運営協議会概要

日時 令和6年5月15日（水）15時～

会場 大阪府立岸和田高等学校 校長室

学校運営協議会委員

近畿大学教授	柴 浩司	様
岸城中学校校長	松下 孝徳	様
岸城幼稚園長	小野 舞	様
同窓会会長	岸本 敬仁	様
P T A会長	道端 秀明	様
元後援会会長	山路 明子	様

学校側参加者

校長	植木 信博
教頭	田坂 太一
事務長	野村 文博
首席	中野 健一
首席	伊藤 功士
教諭（進路指導部長）	長谷川武央

2 次 第

(1) はじめに（司会：教頭）

① 校長挨拶

- ・お忙しい中ご出席いただき、また今回、学校運営協議会委員をお引き受けいただき感謝する。今年度4名の方が代わられたので簡単に自己紹介させていただく。府立高校3校で教諭として勤め、大阪府教育委員会で10年、大阪府教育センターで3年勤めた後、再任用校長として母校の校長に着任し、今年度で3年めを迎えた。
- ・校長としてめざしてきたのは、生徒たちにとって「入ってよかった」、中学生にとっては「入りたい」と思える学校である。生徒には常に「楽しく充実した高校生活を送ってほしい」と伝えている。学校教育自己診断ではこの2年間、「入学して満足している」、「学校に行くのが楽しい」という質問に対する肯定的評価は上がっており、すすめようとしている教育方針は間違っていないと考えている。
- ・具体的な取組としては、教育活動をコロナ禍前の状況に戻しつつ、本校が行う取組の検証と改善に努めてきた。昨年度3月にはオーストラリアへの研修を復活させるとともに、この2年生からは台湾への修学旅行を再開させる。取組の検証と改善については、私自身が府教育委員会の指導主事としてグローバルリーダーズハイスクールを担当している頃から、岸和田高校が実施する様々な取組を把握しており、その必要性を感じていたところである。各分掌や学年に対して、所管する取組についての成果と課題や、業務負担を踏まえた取組の効果を分析させるとともに、改善に努めてきた。
- ・学校全体の取組として、昨年度から「朝読」の時間を廃止するとともに、これまで「土曜学習タイム」として実施してきた土曜日午前の原則部活動禁止を今年度から廃止した（月1日程度の講習日（午前部活動禁止）は残している）。生徒たちが自ら必要と考えることに時間を有効活用してもらいたいと願っている。

- ・学校運営協議会は実施要項第4条にあるとおり、学校経営計画や学校評価に関する事項、授業その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議に関する事項などについて協議を行い、校長に意見を述べることができる会議である。委員は保護者、地域住民、学校の運営に資する活動を行う者、学識経験者などからなる6名である。教育活動の改善と充実に向け、それぞれの立場で様々な視点から多くの意見をいただきたい。会議は5月、10月、2月の年3回開催する。

② 学校運営協議員の自己紹介

③ 本校職員の紹介

(2) 協議

① スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて

【報告】

- ・スクール・ミッションについては、一昨年度に学校としての案を提出し、年度末に府教育庁から示されたものである。本校は平成23年度にグローバルリーダーズハイスクールに指定され、リーダーとしてグローバルに活躍する人物の育成が求められている。
- ・スクール・ポリシーはグラデュエーション・ポリシー・カリキュラム・ポリシー・アドミッション・ポリシーの3つのポリシーからなり、昨年度学校運営協議会での承認を得て、教育庁に案を提出した。それぞれに盛りだくさんの内容で提出したが、修正されることなく承認されたものである。
- ・グラデュエーション・ポリシーは育成をめざす資質・能力を、カリキュラム・ポリシーはそうした資質・能力を付けるためにどのような取組を行うかを示すものである。また、アドミッション・ポリシーはどのような生徒に入学してもらいたいかで、これまでから入学者選抜に向けて中学生に示しているものである。
- ・課題研究を含めた授業、GLHSとして、またSSHとして実施する多岐にわたる取組、部活動や学校行事などにより、主体的に学び、成長し、自らの進路を切り拓こうとする意欲や態度、思考力・判断力・表現力や情報活用能力を育むとともに、多様な価値観を理解・受容し、他者を思いやることのできる豊かな人間性や社会性を育むことをめざしている。

【質疑応答】 なし

② 令和5年度学校教育自己診断の結果について

【報告】

- ・学校教育自己診断の結果については、校長としての取組の成果を検証するツールとして、その値の変化は重要視している。資料は令和3年度から3年間の経年比較を示したものである。私が校長になったのは令和4年度からである。
- ・教職員の結果では、「校長は教育理念や学校経営についての考え方を明らかにしている」や「学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている」など、校長に対する肯定的評価は私の自己評価を上回るぐらいの高い結果であった。ただ、2年めとなる昨年度は低下した項目がある。すでに私の考えは理解してくれているだろうと思っていたところが、教職員は異動もあるため、毎年変わらず発信しなければならないものだと分かった。教職員間での日常的な話し合いや授業改善に向けた取組などが上昇していることは嬉しい結果であった。
- ・生徒の結果では「入学して満足している」、「学校に行くのが楽しい」の肯定的評価が上がっている。1人1台端末の活用については、昨年度、少し上昇し90%を超えた。土曜午前の学習時間としての活用は数年下がっていたが、昨年度はやや上昇し、何とか50%を超えた。ただ、期待どおりの効果ではないため、今年度から土曜午前の原則部活動禁止を廃止した。保健室や相談室などで気軽に相談できるという肯定的評価はこの間上昇し、70%を超えた。

- ・保護者の結果を見ると、生徒と保護者の肯定的評価の値は似通っており、家庭で親子がよく話をしていることが想像できる。PTA活動への参加については、PTA行事を含めてPTAが参加できる行事をコロナ禍前に戻していることで大きく向上している。また昨年度は岸和田高校では初めて保護者向け授業公開を実施したところ、およそ3分の1の生徒の保護者・家族に来校いただいた。とても好評であったため、今年度も実施する。「教育活動を分かりやすく伝えている」という質問項目では校長ブログの更新回数を増やしたこともあり上昇した。

【質疑応答】 なし

③ 令和6年度学校経営計画について

【報告】

- ・「令和6年度学校経営計画及び学校評価」は昨年度の第3回学校運営協議会において承認いただいたものだが、改めて説明させていただく。めざす学校像には、生徒の第一に希望する進路の実現を図るとともに、「確かな学力」と「幅広い資質・能力」、「豊かな感性」の育成をめざすとしている。
- ・中期的目標は、『確かな学力』と『幅広い資質・能力』の育成、『高い志』の育成と『第一希望の進路実現』、『豊かな感性』『高い人間性』の育成と『安全で安心な教育環境』の整備、『社会に開かれた教育課程』の実現と『社会参画意識』の向上の4つを大項目としている。
- ・ここからは「本年度の取組内容及び自己評価」の内容について説明する。
 - ・これまで実施してきた土曜午前部活動禁止を廃止したことに伴い、学校教育自己診断の質問項目を「土曜日を学習時間として活用」に変更し、肯定的評価75%以上を目標とした。
 - ・岸高手帳の活用度は年々下がっている。学習習慣の定着と時間管理能力の育成が目的であり、もっと活用してほしいと考えている。
 - ・「縦割り型課題研究」とは、学年の垣根を超えた交流を活発に行うため、今年度から全学年が木曜6限に課題研究に取り組むものである。先日も2年生が1年生と3年生に自らの研究計画を発表する会を開催した。1年生は来年度実施する課題研究のイメージを掴むことができる、3年生は2年生にアドバイスすることができるというメリットがある。
 - ・「授業振り返りシート」については昨年度から活用している。年2回授業アンケートを行うが、その結果を踏まえ、一人ひとりの教員が課題を洗い出し、改善を行うことを目的に実施している。校長と各教員との面談においても活用している。
 - ・「ハイレベル講習」は1年対象の80名を成績により選抜し、実施する希望者講習である。「スーパークラス」は2年生から文系・理系各1クラス（40名）ずつ、成績により選抜し編成するクラスである。2年から3年でのクラス替えは行わない。
 - ・全校一斉定時退庁日については、本校では水曜日としている。7限めの授業が16時に終わり、16:40には完全下校としている。本校は教材研究や講習に加えて、部活動も活発に行っており、時間外在校等時間が月当たり80時間を超える教員が昨年度5名いた。

【質疑応答】 なし

④ GLHS卒業生アンケート（H25～R5）について

【報告】

- ・府教育庁では、グローバルリーダーズハイスクール10校の生徒が卒業する際にアンケートをとっており、その結果（推移）をまとめたものである。GLHS1期生となる本校66期生は10校全体と比較しても高い数値であったが、それ以降は下がってきていた。ただ、この春卒業した76期生は「とてもそう思う」の数値が上がるとともに、否定的評価も減少した。こうした生徒の意識を変えていくことが大切であり、校長としての使命だと考えている。学習面や人間関係でしんどい思いをしている生徒が増えていると感じており、そのような生徒たちをしっかりと支援していきたいと考えている。

【質疑応答】 なし

⑤ 昨年度の進路実績について

【報告】

- ・「第一希望の進路実現」を掲げて進路指導をしている。今年度は19年ぶりに現役生が東京大学に合格した。ほかにも京都大学、国公立医学部医学科複数名合格など、受験における最難関を突破した生徒が増加した。生徒本人はもちろん、担任、教科担当者など多くの教員の努力が実を結んだ形となった。全体としては、国公立大学進学者数が私立大学進学者数を越えたのは76期生が初めてである。
- ・課題としては、3年4月の進路希望調査では、60名程度が大阪大学、120名程度が大阪公立大学を志望していることを意識した授業を実践することである。また、生徒たちは夏の模試などの判定が出始めてから結果を気にして現実的な志望校を考え出す状況があるのも課題の一つであり、改善していかなければならない。
- ・進路指導方針として、1年で2回、2年で3回の模擬試験を全員受験しており、その結果を効果的に活用し、生徒たちの進路意識と学習意欲の向上につなげるための取組の充実を図りたい。また、自分のアウトプットの時間を確保するため、時間の有効活用とタスク整理を指導している。自ら学ぶ時間を増やすためには、土日の時間の有効活用が必要になる。
- ・大学入試に向けて、実力が付いていると生徒自らが実感できる授業を実施し、その実感を模擬試験で数値として確認できるといった好循環を生み出すことができればと考えている。

【質疑応答】

(委員) (道端様)

3年生の保護者としての質問になるが、浪人生が昨年の36名から今年は50名に増えたことについて、学校としてどのように考えているか。

(学校)

「第一志望の大学をめざそう」という指導をしてきた。また、来年度入試(R7)は学習指導要領が変わった初年度であり、大学入学共通テストの内容も変更される。過去の数値からも、今年度入試では全国的に現役志向が強くなるため、来年度入試では浪人生のライバルは減ると考えられる。そうしたこともあり、もう一年、第一志望の大学入学をめざして頑張ろうと考える生徒が増えたのではないかと考えている。

(委員) (道端様)

他校と比較して、岸和田高校の浪人する生徒の割合は多いのか。

(学校)

本校は他のGLHS10校と比較すると、浪人する生徒は少ない。

(委員) (柴様)

進路希望について、生徒たちは1, 2年次から、自分の実力と目標とする大学の現実をしっかりとしているか。

(学校)

大学の現実、合格することの困難さは理解しているが、目標として掲げている。

(委員) (柴様)

現実は見えていても目標を下げることはないのか。

(学校)

3年の4月までは、1年夏の進路希望調査の結果と比べても大きな変化はない。進路希望についても、自身の実力についても、まだ十分に捉えきれていないとも考えられるし、最後まで高い志を持っているとも考えられるところである。

(委員) (柴様)

難関大学に合格した卒業生の成績に関する経緯を生徒に伝えてはどうか。

(学校)

毎年、校内の模試分析会において卒業生の成績に関する経過を担当に伝えており、各担任から生徒たちに指導している。

(委員) (道端様)

浪人することに対して、学校のアプローチはどのようにしているか。

(学校)

最終的に判断するのは本人に任せている。悔いがないよう、前期入試については本人が行きたい大学を受けようと指導している。家庭の事情で浪人できない場合には、私立大学の受け方をしっかり考えるよう指導している。

(委員) (柴様)

近畿大学に進学した生徒の中にも、国公立大学に行きたかったが、塾の指導などもあり不本意ながらも進学を決めた生徒もいる。そうした状況の中、入学したものの、やはり行きたくなかったと言って休学する学生もいる。

(委員) (松下様)

学校推薦型選抜(指定校推薦)で進学した生徒は何名くらいか。

(学校)

去年は5名、一去年は10名であった。生徒たちには行きたい大学の推薦型があるのであれば受ければ良いと指導している。

(委員) (柴様)

国公立大学の総合型選抜の合格者はどれくらいか。

(学校)

全体で20~30名程度であり、大阪公立大学が多い。総合型選抜とはいえ、多くの大学において大学入学共通テストの結果も必要とされていることもあり、総合型選抜で合格する生徒は一般選抜でも合格すると思われる生徒であることが多い。面接において、課題研究のことを伝えてくることが多い。

⑥ 新1年生(79期生)の状況について

【報告】

- ・学力調査の結果を見ると、現3年生(77期・新学習指導要領初年度の学年)から岸和田高校入学時点における学力層が変化したことが分かる。この傾向は本校だけの話しではなく、GLHS10校を含め、全国的なものであると分析されている。入学後の状況では、76期までの状況を維持しているといえる。そうした中、進路希望の状況についても大きな変化はない。
- ・ただ、学力調査の結果では、新1年生(79期生)は入学時点で学力上位層は増加した。2年生でもこの状況を維持できるよう指導していきたい。
- ・学習状況調査の結果を見ると、学習時間が減少している。そのため、これまで以上に低学年時の学習習慣と学習における基礎・基本の定着が重要になる。

【質疑応答】 なし

⑦ 広報／グローバルリーダー養成プログラムについて

【報告】

- ・まずは広報活動について話しをさせていただく。本校主催の学校説明会は8月に2日間、11月に1日開催している。また、6月に塾対象岸和田高校見学会を開催している。
- ・他にも外部機関が主催する合同学校説明会に参加している。これまでそうした合同学校説明会には必ず参加するよう努めてきたが、本校入学生への調査から、外部主催の合同学校説明会での効果は薄いことが明らかになったため、今年度は参加を減らすこととした。
- ・一方、本校主催の学校説明会については、現役生徒が中学生の前で話をするのが好評を得ており、より充実させた内容にしたいと考えている。また、中学生にとって岸和田高校は勉強ばかりのイメージがあると聞くので、そういったイメージを払拭して、勉強も頑張り、行事や部活も楽しめる学校であることをアピールするため、今年度から新たに「Instagram」や「SSH探究note」による情報発信を始めたところである。

【質疑応答】

(委員) (柴様)

中学校から見ると岸和田高校は勉強ばかりのイメージがあるのか。

(学校)

本校に入学した多くの生徒から、本校はグローバルリーダーズハイスクールということで、中学生の頃には勉強ばかりのイメージがあったとよく聞く。入学してから岸和田高校の楽しさを実感していると言っているため、その楽しさについて情報発信する必要性を感じた。

(委員) (松下様)

しっかりコツコツと勉強した生徒が結果的に合格する高校であるため、中学生はそういうイメージをもっているのではないかと思われる。

(委員) (松下様)

私立高校は塾講師を招いた講習をしたりしているが、岸和田高校でも塾に通わないといけないような状況なのか。

(学校)

学校として塾に通うことを薦めてはいないし、むしろ学校の授業を大切にするよう指導している。ただ現状として通塾率は、1年生で3～4割、2年生で5～6割、3年生になると7～8割となっている。

(委員) (岸本様)

私の子どもも岸和田高校46期生、51期生としてお世話になった。子どもが通っていた頃には塾に行っていなかったのが、今の話を聞いてとても驚いている。本人が行きたい大学に行く方が良いと思う。

(委員) (山路様)

東京大学に進学した生徒は、当初から成績優秀な生徒であったのか。

(学校)

学力トップ層の生徒ではあったが、常に学年1位という生徒ではなかった。愚直にコツコツ頑張るような生徒であった。もともとは京都大学志望であったが、3年生になってから東京大学をめざすことにした。

(委員) (山路様)

私の子どもも浪人したが、予備校においても良い教えをもらったり、良い仲間と巡り会えたりして、良い1年を過ごしていたと思う。高校においてもメンタル面の指導をしていてもらえたらと思う。

⑧ 課題研究の取組について

【報告】

- ・本校では平成23年度から大阪府よりグローバルリーダーズハイスクール（GLHS）に、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、文理学科の生徒は3年間をとおして課題研究に取り組んでいる。平成30年度入学生からはすべてのクラスが文理学科となり、今では生徒全員が課題研究に取り組んでいる。
- ・1年生では課題研究の基礎事項を学びながら、自らの興味・関心をもとにテーマ設定に向けた活動を行いながら、研究テーマを決定する。2年生では1年生で決定した研究テーマに対して、個人または複数名からなるグループで研究活動を行う。3年生では2年生で取り組んだ研究成果を論文としてまとめる。なお、3年生でも研究を継続する生徒もいる。
- ・本校のSSHは現在、第Ⅲ期3年めを迎えており、第Ⅲ期からの新たな取組である「プロジェクト“Nova”」、「文理融合型課題研究」、「縦割り型課題研究」などに取り組んでいる。また、SSHの取組として、「SSH講演会」、「サイエンスツアー」、「サイエンスカフェ」などを実施するとともに、コンクール・コンテストや外部での発表会に参加している。

【質疑応答】 なし

3 今後の予定

第2回 10月16日（水）15:00～

第3回 2月12日（水）15:00～

4 校長より

本日は長時間にわたり、貴重な意見をいただいたことに感謝する。柴委員から「本校の応援団として」という言葉があったが、他の委員の皆さんの言葉からも応援いただいていることを実感した。

本日は本校の取組や現状などを知ってもらいたく、説明する時間が長くなってしまった。次回の10月16日（水）には話しだけではなく、実際に授業を見学してもらう予定である。引き続き、よろしくお願いする。